

感染状況

- **新規陽性者数や陽性率**（自費検査や無料検査の陽性判明率を含む）は、**年明け以降減少傾向が続いている**。全国的にも、新規陽性者数の減少傾向が継続。
- オミクロン株の複数の亜系統が確認されているが、現時点で**特定の亜系統への急速な置き換わりは見られない**。
- 新規陽性者のうち、**自己検査を実施し、陽性者登録センターに登録した方の割合は2割前後で推移**（発熱外来ひっ迫を回避するための自己検査の割合目標は5割）。
- 1月の**高齢者施設関連のクラスター発生数は、直近1週間の発生件数は前週より減少したものの、12月より増加している**。
- **オミクロン株対応ワクチン接種状況としては、全年齢で接種率34.6%、65歳以上では66.3%**。
- なお、現時点において、**府における季節性インフルエンザは、今年の第3週（1月16日～1月22日）で20.46と、注意報基準値を超過し、流行中**。

入院・療養状況

- **病床（重症病床及び軽症中等症病床）使用率は、1月30日時点で43.7%と減少傾向が続き、1月31日に大阪モデル「非常事態」解除（黄信号点灯）の目安に到達**。軽症中等症病床については、1月25日に受入医療機関に対し、フェーズ5（緊急避難的確保病床を除く）への移行を通知。また、宿泊療養施設については、1月31日にフェーズ4に引き下げ。大阪市内入院患者待機ステーションについては、2月3日より、休止。
- **重症化率・死亡率（1月22日判明時点）は、依然、第六波以降、第五波までと比較して低い状態が続いている**。

今後の対応方針について

- **新規陽性者数は減少傾向が続き、病床使用率については、大阪モデルの「非常事態」解除（黄信号点灯）の目安に到達**。しかし、報告に表れない感染者が多数存在している状況が想定され、今後、米国で顕著に増加しているXBB.1.5系統など、オミクロン株の亜系統への置き換わりが進んだ場合、**新規陽性者数が十分に下がりきらないままに増加に転じる可能性があり、その場合、再び医療提供体制がひっ迫する可能性もある**。（例年、3月から4月は、春休みや、卒業式・入学式、入社式等の恒例行事や宴会、旅行等の感染機会が増加）
- 府民においては、**検査キットや解熱鎮痛薬、食料品等の備蓄と、基本的な感染予防対策の継続が求められる**。府としては、引き続き、**現在取り組んでいる、診療・検査医療機関の拡充や大阪コロナオンライン診療・往診運用センターの運用、介護的ケアを行う臨時の医療施設の運用等の高齢者施設対策など、保健・医療療養体制整備に係る各取組みを継続していく**。
- なお、1月27日に政府対策本部において、5月8日付で、新型コロナウイルス感染症について、感染症法上の位置づけを季節性インフルエンザと同様の5類感染症に変更する方針が決定された。
今後、保健・医療療養体制のあり方やマスクの取扱いなど、制度の大転換期を迎えるが、国から今後示される方針に基づき、検討を進めていく。
（詳細は資料5-1のとおり）